

# 「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」

## 北長野ベースボールクラブが北信越地区代表として大会参加

11月2日(土)～11月5日(火)にかけて「令和6年度 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」が静岡県伊豆市・伊東市で開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり2022年から各地区10チームの縮小枠で実施されておりましたが、本年度は全国16チーム、北信越ブロック枠も2チームに拡大された大会となりました。

北長野ベースボールクラブは令和5年度に軟式ボールから硬式ボールへのスムーズな移行と高校野球へ繋がる基本動作の習得を目的に設立され、本年度は2期目になります。中体連の地区予選、県大会、北信越大会を終えた希望者を中心に長野市を南北に分け、北長野ベースボールクラブは長野市・飯綱町・信濃町の中学3年生24名が本年度は集結しました。週末を中心に練習し、都道府県対抗長野県大会や11月に諏訪市で行われる硬式ボールでの大会に参加する計画で活動してきました。本年度は9月14・15日に行われた都道府県対抗長野県大会で見事優勝し、長野県代表として9月29日に北信越大会に参加しました。北信越大会では、1回戦富山県代表の氷見北部中学校を5-0で破り、全国大会出場権を獲得、続く決勝戦においても新潟県代表の新潟県選抜チームに延長8回タイブレークの末5-3で勝利し、北信越大会初優勝を成し遂げました。



全国大会初日は大雨のため順延となり、初戦は11月3日東北ブロック代表「盛岡U15 ジュニアユース」と対戦しました。北長野ベースボールクラブは



先発の横地さん(北部中)が4回を完璧に抑える内容で5回終了時点では2-0とリードしておりました。しかし、6回裏にひとつの送球エラーから一気に3点を奪われ逆転を許し、最終回も反撃ならず3-2のスコアで惜敗、敗者復活戦に回ることとなりました。

翌日の4日は同じく1回戦で敗れた千葉県代表の「千葉ファイターズ」と対戦。北長野ベースボールクラブは先発の野池さん(櫻ヶ岡中)が昨日の悔しさをバネに粘投、毎回スコアリングポジションにランナーを置く苦しい展開でしたが、4回途中まで0点に抑え、昨日好投の横地さんへリレーし、6回を終了し0-0最終回の攻防を迎える展開となりました。7回表、攻撃が奮起し無死2、3塁から高林さん(長野日大中)の犠牲フライで1点先制し、一死3塁からスクイズを試みるも相手バッテリーに見破られ失敗、その裏粘る相手も一死3塁から同点に追いつき延長戦となり、8回タイブレークの末2-3のスコアで惜敗、2回戦に駒を進めることができませんでした。



長野県勢は、コロナウイルスによる縮小大会となっただけからこの都道府県対抗野球大会において、北信越大会の壁を越えることができませんでした。しかしながら、選手ひとりひとりが今大会準決勝まで駒を進めた盛岡U15 ジュニアユース (2018年以來の大会参加)、

130km/h を超えるストレートを投げ込む投手陣が並ぶ千葉ファイターズを相手に、臆することなく立ち向かっていました。選手には全国レベルの野球を体感し互角の勝負ができたことを自信にして、これから長野県高校野球界を盛り上げていってくれるのではと期待しています。

夏の全国中学生総合体育大会での佐久長聖中学準優勝や東日本大会での松本国際中の準優勝、今大会での長野県チームの健闘を考えると県レベルでの技術力向上を続けていくことが長野県中学野球界の更なる躍進に繋がっていくと実感しています。我々関係者一同より一層の努力を続けて参ります。

北長野ベースボールクラブの選手、指導者、全ての関係者の皆様大変お疲れさまでした。最後に、北長野ベースボールクラブ 小竹大助監督からの「令和 6 年度 第 22 回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆を終えて」を掲載します。ご覧ください



長野日本大学中学校野球部 顧問

北長野ベースボールクラブ 監督 小竹大助

### 「令和 6 年度 第 22 回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆」を終えて

本年度、2 期目を迎えた北長野ベースボールクラブは中体連の地区予選、県大会、北信越大会を終えた 3 年生を対象に、高校野球へ向けて硬式ボールへ早く慣れること、基本技術の再徹底を主たる目的として立ち上げたクラブチームです。活動の計画の中に都道府県大会への出場、硬式ボールを使った大会への出場を取り入れ、週末を中心に活動しています。幸いなことに都道府県大会長野県代表決定戦、北信越地区代表決定戦を勝ち上がらせていただき、上記の全国大会への出場機会を得ることができました。これもこのチームを日頃より支えていただいているチームスタッフや保護者の皆様のご協力、また連盟の皆様のご支援なしでは実現しなかったことだと感じています。改めて感謝申し上げます。

さて、今大会に参加させていただく中で私なりに強く感じた点について述べさせていただきます。私も昨年度、北長野ベースボールクラブの発起人であります柴山晋一様から、中学軟式野球が終わる 6 月から 11 月の間、高校野球を強く志す子ども、迷っている子どもを中心に週末、硬式野球ボールへ慣れる、高校野球において必要な基礎動作をできる範囲で伝えていきスムーズに高校野球をスタートさせたいという強い希望をお聞きし、私なりに協力できればと考え、勤務先である長野日本大学中学校長の許可を頂きスタッフに入れさせていただきました。都道府県大会へは昨年度も参加し南長野ベースボールクラブに惜敗、今年度は 9/14 に 1 次予選で佐久ベースボールクラブ、南長野ベースボールクラブをそれぞれ先制されながらも逆転する展開で勝利、翌日に中南信予選を勝ち上がった南信州 CLUB との県代表選においては 3 回まで 1 点を追う展開の中 4 回裏に同点、6 回裏に 2 点勝ち越しすることが成功し、相手チームの反撃に耐え 4-3 の 1 点差で勝利し、北信越代表決定戦へ駒を進めることができました。

北信越代表決定戦は 9/29 新潟県佐藤池球場にて第 1 試合富山県代表の氷見市選抜と対戦。ゲームは先発した横地さん(北部中)がバッターの手元で落ちるスライダーを中心に相手打線を封印し 5-0 で

全国大会への出場権を獲得、決勝戦では新潟県選抜と決勝戦を行い選抜の野池さん(南部球友)が粘投し2-2のまま延長戦へ突入、8回タイブレーク5-3で勝利し、北信越地区第1代表として全国大会へ進むこととなりました。北信越地区のチームと対戦を経験する中で新潟県選抜のレベルの高さ、選手の質とスタッフの意識の高さに正直驚愕しました。勝利させていただいたとはいえ選手の選出方法、練習量についてもお話をお聞きさせていただく中で長野市だけでなく長野県全体で何か変化させなくてはいけないのではと感じながら帰路につかせていただくと同時に、全国大会への期待と不安を強く感じる1日となりました。

全国大会は新型コロナの影響を受け3年前から復活する形となりましたが、昨年度までは全国10チームと縮小した大会は、本年度は全国から16チームの代表と規模を拡大させての大会となりました。

北長野ベースボールクラブは1回戦東北ブロック代表の岩手県盛岡U15ジュニアユースと対戦。前半2点を先制するも小刻みに投手リレーする相手投手5名から追加点を奪えず終盤へ、終盤6回ランナー1塁の場面からサードゴロダブルプレーを焦った内野陣が送球、捕球エラーし1、3塁にその後犠牲フライ、タイムリー2ベースと畳み込まれ2-3で敗退、翌日の敗者戦へ回ることとなりました。

翌日は前評判では優勝候補の筆頭といわれていた関東代表の千葉県選抜の千葉ファイターズがまさかの1回戦負けて敗者戦に回り対戦。前半戦お互いの投手が好投し常にランナーを背負う苦しい展開ではありましたが6回を終え0-0のまま最終回に、北長野ベースボールクラブは先頭の2塁打を皮切りに1点犠牲フライで先制、なおも1死3塁の場面でスクイズを仕掛けますが相手投手に外され1点差で最終回の守りに、千葉の先頭打者が気迫の右中間3塁打そこからバッテリーエラーによって1-1の同点、タイブレークでも相手の流れを止められず3-2のスコアで敗れ本大会2試合とも敗戦する結果となりました。

この大会でも各県の足の速さ、投手のスピード、変化の鋭さ、身体の高さ、スイングの速さそして勝負に対する貪欲な姿勢など、多くを勉強させていただく場面がありました。そして何より各チームのスタッフの意識の高さには驚かされる経験となりました。

選手の選考方法も各県大変厳しく、選手たちの野球に取り組む姿勢を拝見していると選出された選手へのプレーに対する意識づけに至るまで各県を代表するにふさわしい立ち居振る舞いを感じました。我々も北信越地区の代表意識をしっかりとって臨んだつもりですが改めて勉強させていただく場面が多くありました。

子供たちにも今回の大会を通じて全国大会のレベルの高さや自分たちに足りない点を強く感じて高校へ進んでいってほしいと思いますが、長野県中学軟式野球に携わっている我々指導者も全国大会のレベル、選手に養ってほしい技術や基礎体力など、他府県との差を強く感じて指導に取り組みなくてはと痛感致しました。子供たちに連れて行ってもらった舞台上に私たちに足りないと感じたことをぜひ多くの指導者の皆さまに伝達し、少しでも長野県の野球レベルが向上するように変わっていかなくてはならないのではないかとこの大会を通じて感じさせていただくことができました。微力ではありますが長野県野球界の発展のため精進してまいります。

この度は誠にありがとうございました。